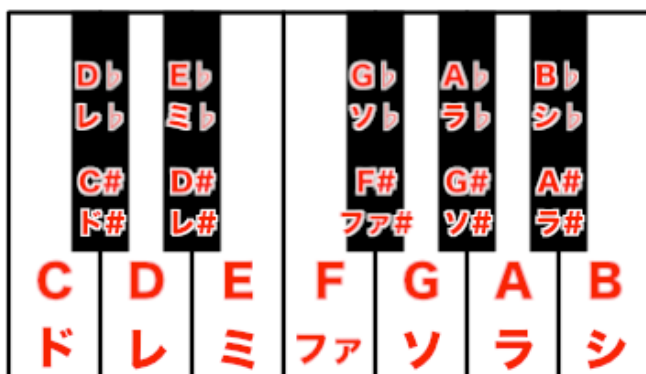


2016年DTM講座 第5回

音楽理論

今回の講座では、音の呼び名を「ドレミファソラシ」ではなく、「CDEFGABC」に置き換えます。なんでドがAじゃねえんだよ！！って思いますよね。

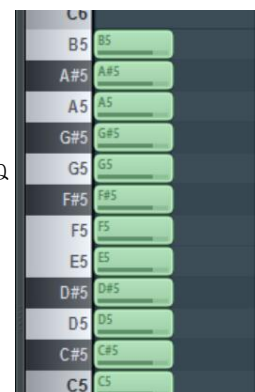
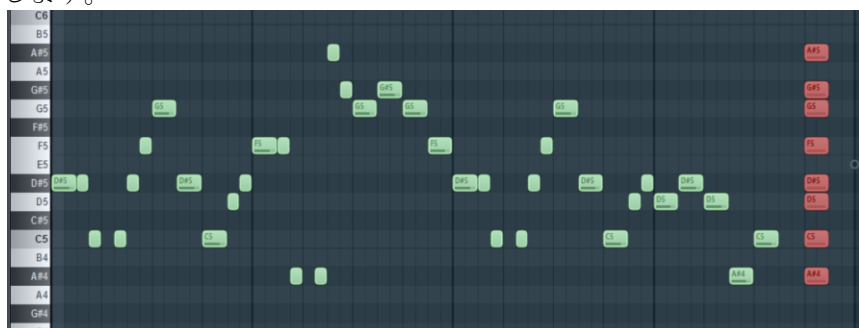


(#は半音上げる、♭は半音下げる、の意)

ちなみに昔日本人がつけた「ドレミファソラシド」は「ハニホヘトイロハ」でした。ドがイじゃねえのかよ！！！！って思いますよね。ラが「A」で「イ」なんだなあ、ラってすげえんだなあ、と感じられ。

さて、ピアノの鍵盤やピアノロールで、Cから順に数えていくと、CからBには12種類の音があります。しかし、曲を耳コピーしたり、あるいはMIDIファイルを得て覗いてみると、たいていの曲が7種類の音をメインに使って作られていることに気付くと思います。

例えばドレミの歌。ピアノの白鍵「CDEFGAB」の7音だけで作られていますよね。第一回の講座で打ち込んだメロディーラインも、7音だけで作られていたりします。



スケール（音階）とキー（調）

ピアノロールで、いわゆる普通の「ドレミファソラシド（CDEFGABC）」を打ち込んでみてください。音の高さの間隔が一定でなく、1つ飛ばしになっているところと、そうでないところがありますよね？



1つ飛ばしの間隔を全音、隣接している幅を半音といいます。こんな風にお馴染みのドレミファソラシドは、全音と半音の組み合わせでできています。

7音の全音と半音の並び方をスケールといいます。（7音じゃないのもあるかも）

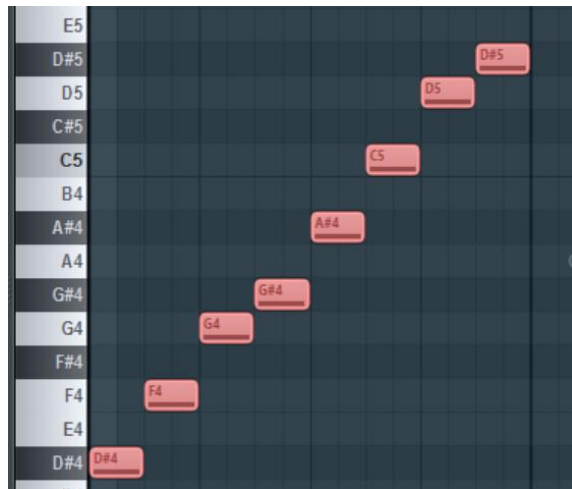
さて CDEFGABC の並び方は、下から見て「全-全-半-全-全-全-半」という風になっていますね。この「全-全-半-全-全-全-半」の並び方はとってもよく使われるので、メジャースケールと呼ばれています。

CDEFGABC では「全-全-半-全-全-全-半」の並びは C から始まりました。なので、CDEFGABC は、キーが C のメジャースケール、略して C メジャースケールと呼ばれます。

最 the 高に分かりにくいですね…

スタート地点がどこであろうと右図のような「全-全-半-全-全-全-半」の並び方がメジャースケール、スタート地点のことを「キー」といいます。





こんな風になっても、「全-全-半-全-全-全-半」の並び方なのでメジャースケールです。スタート地点が D#なので、これは D#メジャースケールといいます。

キーがどこだろうと、メジャースケールの音を使って作られた曲は、明るい曲になりやすいです。といっても、じゃあ C メジャースケールでは CDEFGABC しか使っちゃいけないのかっていうと、そんなことはありません。スケール外の音を使うと最高にいい感じになることもあります。しかしうまく使わないと、とんでもない不協和音が生まれたり、音を外したような感じになります。

とりあえずスケール内の音を使っておけば音を外した感じだけは防げる、安全だ、うえい、アクセントが欲しいときはスケールから外れよう、みたいな感じですよ。

スケールには「全-全-半-全-全-全-半」のメジャースケール以外にも、

「全-半-全-全-半-全-全」などのマイナースケールと呼ばれるものがあります。他にも、使うと和風っぽくなったり民族音楽っぽくなったりするスケールもあります。

詳しくは本講座では紹介しませんが、興味があったらぜひ調べてみてください。

転調ってなに

調とはキーのことです。曲の途中でキーが変わることを転調といいます。

スケールが変わってなくても、キーが変われば転調です。

よくあるのは、歌の最後のサビでキーが半音上がるやつです。今までのサビよりちょっと音程高くなった…！ってなるアレです。

違う高さの音を重ねたとき、綺麗に響いたり響かなかったりする



Cの音に、別の高さの音を重ねて再生してみてください。

不愉快な響きになったり、悲しげな響きになったり、綺麗な響きになったりします。

こんな風に音を重ねると様々な響きが生まれ、この響きを曲の中で使って、曲の雰囲気を楽しめる感じにしたり、悲しい流れにしたりしよう！！

ってというのが、私の勝手なコードの解釈です。

「コードとは」でググると『和音だよ』って出てくるけど正直何に使うものなのか分からなかったあの頃

コードとは、和音のことです。

…違う高さの音を重ねます。これが和音です。

和音は基本的に3つ音を重ねて作ります。2音だけでも雰囲気が出ますが、3つの方がもっと個性が出ます。(4つとか5とか重ねるともっと個性が出ます。)

そんな和音を曲の中でコロコロ変えたり変えなかったりしながら、曲の雰囲気や流れを作っていきます。

和音を変えるときに並べ方をコード進行といいます。

今日の講座で、音は12音あるけど曲は大抵7音メインで作られている、スケール外の音を使うといい感じになったりあーだこーだ言ったと思います。

和音も、スケール内の音だけで作れば大抵安全な響きになり、スケール外の音を使うと、それはもう個性的で、ぜひいつか使いこなしたいって感じの響きになります。

私はスケール外の音を組み合わせた和音を使いこなせるほどの者じゃないので、講座ではスケール内の音だけで作られる和音について説明します。

ということで、一番簡単で分かりやすい、Cメジャースケールの音で作られるコードを紹介
します。

Cメジャースケールの音で作られる和音

主なコードは、スケール内で1個飛ばしの音を重ねて作られます。

Cメジャースケールで1つ飛ばしで3つの音を重ねるとなると、この↓の画像のような7
種類の和音しかできません。



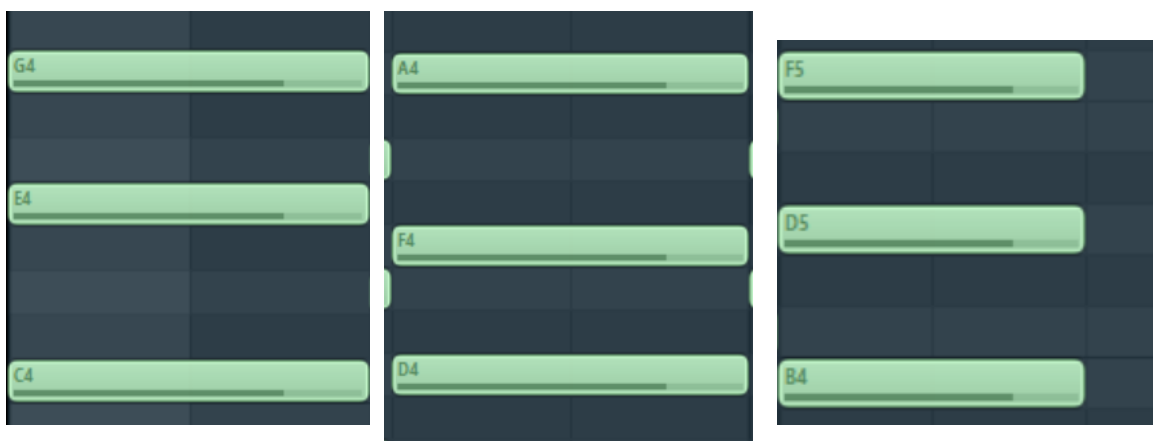
こんな風にしてできた7種類の和音をダイアトニックコードって呼ぶのだそうだ…

この7種類の和音にはそれぞれ名前があり、役割があります。ソw w w w w w w

まずは名前のつけかた。

3つの音のうち一番下にあるやつが「ルート音」です。

それぞれの和音を見てみると、3つの音の高さの幅が同じだったり違ったりしますね。



C の和音のように、下が 4 音、上が 3 音離れてるような和音はメジャーコードといいます。なのでルートが C の和音は「C メジャーコード」略して「C」と書きます。ルートが F、G のやつもメジャーコードなので、「F」、「G」と書きます。明るい響きがします。

D の和音は下が 3 音、上が 4 音離れてますね。これはマイナーコードと呼ばれます。ルートが D なので、「D マイナーコード」略して「Dm」と書きます。ルートが E、A のやつもマイナーコードなので、「Em」「Am」と書きます。メジャーコードに比べると暗い響きを持っています。

B の和音の形はあんまり無いタイプで、とりあえずマイナーコードの亜種ということで「B マイナーフラットファイブ」と呼ばれます。略して「Bm(b5)」と書きます。暗い響き。

次はそれぞれの役割を見ていきましょう。



せっかく名前をつけたのですが、ここからはコードを番号で呼びます。ルートの C から順に I、II、・・・、VII、という番号で呼びます。かわいそう。

I、III、VI：トニック。実家のような安心感。ドミナントへは進行しにくい。

II、IV：サブドミナント。トニックにもドミナントにも進める。

V、VII：ドミナント。不安感がある。安心感のあるトニックに戻りたがる性質。

コード進行を作る際も、この性質を利用して、「I から V いきたいけど、直接は厳しいらしいから、IVをはさもう」という風に考えていくことができるらしいです。

私はアホなのでこの役割がよく分かりません。「VIIはいいとしてVってそんな不安感なくね？」と何度思ったことか。

なぜ突然コードを番号で呼んで役割を紹介したかというと、キーが変わっても I ~ VII の役割が変わらないからです。

例えば G メジャースケールの曲を作っているとき、ダイアトニックコードはこの 7 種類になりますね。



ここでは「C」はIVなので、役割がサブドミナントになってしまうのです。難しいなあ。俺はもうだめだ。

セブンスコードについて

さっきスケール内の音で一個飛ばしで3つ音を重ねてコードを作りましたが、同じ要領でもう1つ音を足して4音にすると、セブンスコードになります（雑

他にも色んな種類のコードがあるよ

ネットでコード進行をググって出てきた知らないコードは、ピアノロールの左上の▽から Chord を選んで、形を覚えていきましょう。

よく使われるコード進行ってどんなの

コード進行に著作権はありません。先人たちが見つけてきた素晴らしいコード進行をガンッガンパクっていきましょう。有名な J-pop などでは有名な進行を有名に使いまくってたりします。

王道進行（コネクト、ロビンソン、Mermaid girlなどで使われている）

F→G→Em→Am

カノン進行（ドラガナ、負けないでなどで使われている）

C→G→Am→Em→F→C→F→G

小室進行（残テ、千本桜などで ry）

Am→F→G→C

曲中でコードをどう演奏するの

ここは編曲者の腕の見せ所です。ギターみたいにジャンジャカ鳴らすもよし、シンセでサイドチェイン使って裏打ちで鳴らすもよし、warm pad でフワアアアって鳴らすもよし、ピアノでリズムをつけて鳴らすもよし、です。コード is フリーダム。分散和音（アルペジオ）って手もあります。曲作りに正解はないのですよ（どやどやどやどやどやどや(・´--`´)

曲作りのコツ

ネットで検索すると、先人たちの「音楽を音楽たらしめるのは、メロディー、リズム、ハーモニー！」ってのが出てくると思います。

そのとおりです。ここに一石投じするような自論も度胸も持ち合わせちゃいません。この3つを意識して作っていきこう！！！！！！先人最高！！！！！！！！！！

メロディー、リズム、コード、どこから作ればいいのかのらう…

→ある知らない曲を初めて聞くとき、あなたはどこに一番注意して聞いていますか。メロディーを集中して聞いているのか、歌詞に注目しているのか、ドラム隊を聞いているか、ベースが気になっちゃうとか、伴奏が気になっちゃうとか。その一番集中して聞いてっちゃう部分、初めて聞く曲で最も気になっちゃう部分、そこから作り始めるのが楽だって、美少女先輩がゆった。完全に受け売り

今日の講座はここまでです。お疲れ様でした。

左の画像を右の画像のように、1オクターブ上げ下げしてもコードが変わるわけじゃないって知るまで3か月はかかったんだけど



まじちっちゃい頃に音楽やるときゃよかったっておもう。